

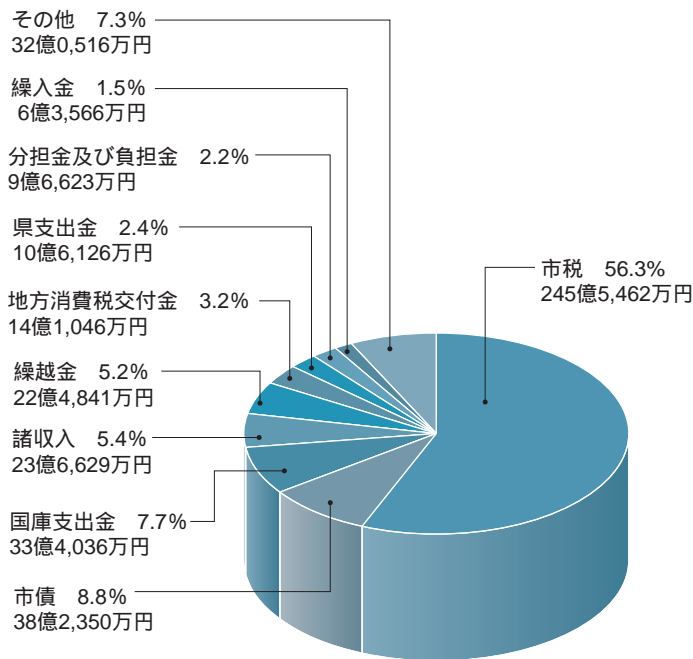
# 平成15年度決算のあらまし

## 市民一人当たり43万円を支出

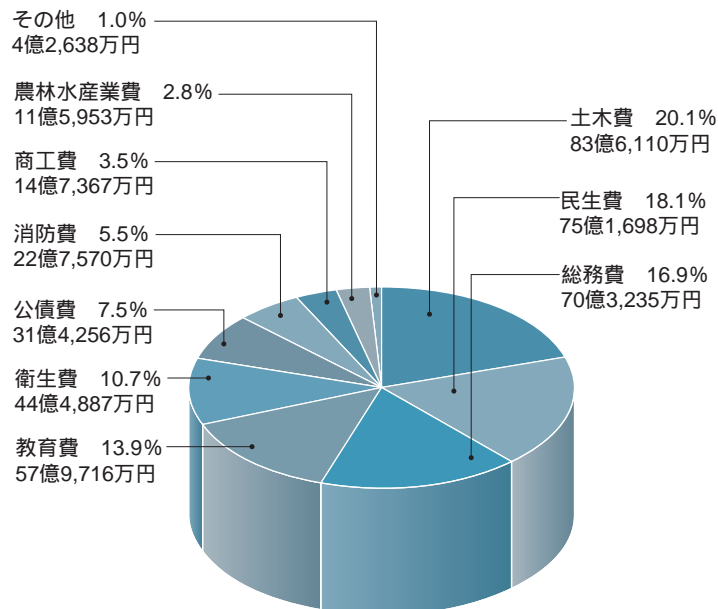
成田市の家計簿ともいえる平成15年度の各会計の決算がまとまりました。「住みよいまちづくり」を推進するため、さまざまな事業が行われました。各会計の決算の概要は次のとおりです。

### 一般会計決算

歳入 436億1,195万円



歳出 416億3,430万円



### 一般会計の実質収支額は14億7,254万円

平成15年度の一般会計歳入歳出決算は、歳入が436億1,195万円、歳出では416億3,430万円(市民一人当たり425,970円)で、差し引きは19億7,765万円でした。この中には、平成16年度に繰り越すべき財源として5億0,511万円が含まれていますので、平成15年度の実質収支額は14億7,254万円でした。

### 市税の内訳

税目	決算額
固定資産税	157億4,054万円
市民税	73億0,331万円
市たばこ税	9億9,306万円
特別土地保有税	2億3,132万円
都市計画税	1億8,968万円
その他	9,671万円
合計	245億5,462万円

### 市有財産の状況

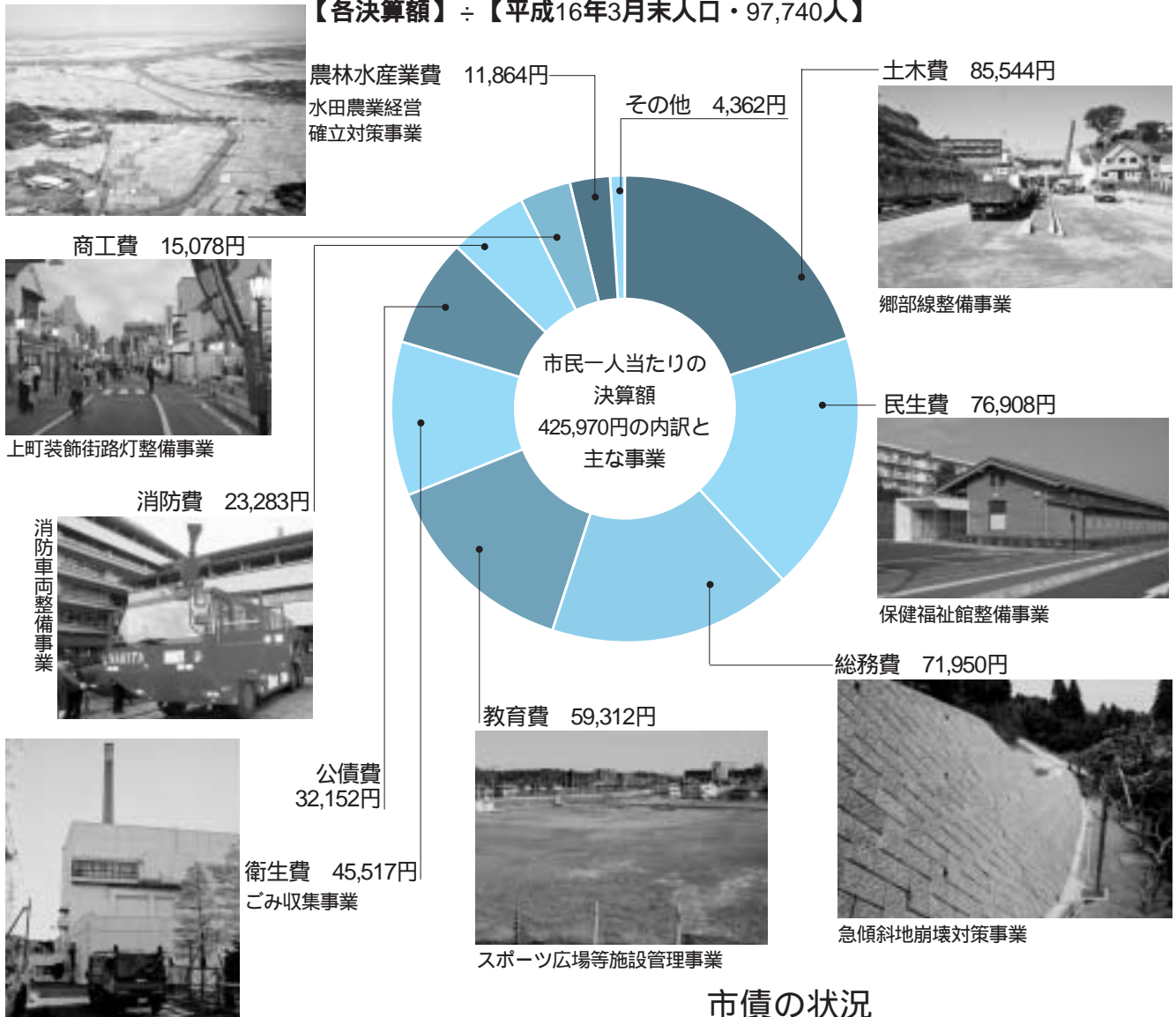
区分	平成15年度末現在
土地	310万3,428㎡
建物	29万7,627㎡
車両	232台
基金	152億8,030万円

### 特別会計決算

会計名	歳入(収入)	歳出(支出)
国民健康保険	59億2,278万円	58億5,384万円
老人保健	47億1,796万円	46億8,543万円
下水道事業	26億3,194万円	25億7,522万円
介護保険	24億7,688万円	24億0,223万円
公設地方卸売市場	3億7,368万円	3億6,438万円
合計	161億2,324万円	158億8,110万円

# このような事業に使われました

【各決算額】 ÷ 【平成16年3月末人口・97,740人】



## 水道事業会計決算

区分	収入	支出
収益的収支	18億9,215万円	16億2,256万円
資本的収支	3億9,931万円	9億3,216万円

収益的収支は、水道料金を主な収入として事業を行い、平成15年度は2億6,608万円の純利益を得ました(純利益は、消費税を除いた額で計算しますので上表の決算額の差し引きとは一致しません)

また、資本的収支は、配水管の敷設や改良事業での収支を示すもので、一般会計における長期借入金に当たる企業債を主な収入として事業を行い、差し引き5億3,285万円の不足額は、内部留保資金などを充てました。

今後も老朽管の敷設替えなど多額の資金需要が見込まれますが、効率的な財政運営に努めるとともに、安全な水を安定してお届けします。

水道事業会計決算について詳しくは市水道部業務課(☎22-0269)へ。

## 市債の状況

区分		平成15年度末現在高
一般会計	土木債	131億7,154万円
	教育債	48億7,440万円
	衛生債	37億2,672万円
	総務債	34億5,344万円
	民生債	20億0,556万円
	消防債	7億9,848万円
	商工債	2,690万円
	その他	50億8,250万円
計		331億3,954万円
特別会計	下水道事業債	105億1,115万円
	市場事業債	2億2,060万円
	計	107億3,175万円
業水会計事	企業債	93億5,946万円

平成15年度決算について詳しくは財政課(☎20-1512)へ。

# 決算に見る市の財政状況

## 健全な財政運営を維持

### 全国平均を上回る 財政状況

市の財政状況を表す主な指標に  
経常収支比率、公債費負担比率、  
財政力指数があります。

財政構造の弾力性を示す指標で  
ある経常収支比率は、80%を下回  
つていて良好といえます。公債費  
負担比率も、前年度と比較して下



全施設がオープンした保健福祉館

回っています。

財政力の強弱を示す目安となる  
財政力指数は、前年度を上回って  
おり、全国平均と比べても依然と  
して高い水準です。

経常収支比率

収入に対して人件費や扶助費な  
ど毎年必ず出ていくお金がどのく  
らいの割合になっているかを示す  
値です。通常、80%を超える場合  
には、財政が弾力性を失いつつあ  
ると考えられています。

公債費負担比率

一般財源総額の内、公債費  
に使われた一般財源の割合で  
す。この比率が高いほど借入  
金返済のための経費が多いこ  
とを表しています。

財政力指数

地方公共団体の財政力を示  
す指標で、この数値が大きい  
ほど財政力が強いと見ること  
ができ、「1」以上の団体は、  
きわめて財政力の強い団体と  
考えられ、普通交付税の不交  
付団体となっています。

区分 年度	経常収支比率				公債費負担比率				財政力指数			
	本市	増減	全国平均	県内平均	本市	増減	全国平均	県内平均	本市	増減	全国平均	県内平均
15	74.3	0.3			9.5	0.3			1.590	0.063		
14	74.0	3.0	87.7	87.7	9.8	0.2	15.2	13.1	1.527	0.058	0.65	0.920
13	71.0	1.9	85.0	85.5	10.0	0.3	14.9	13.0	1.469	0.001	0.64	0.838

- ・平成15年度の全国・県内平均については、現在集計中のため空欄となっています。
- ・全国平均は平成13年度が602市の平均、平成14年度が596市の平均で、総務省発行の「地方財政白書」から抜粋。
- ・県内平均は市平均で、千葉県発行の「市町村財政の状況」から抜粋。

## 決算審査意見書要約

成田市監査委員

藤崎 毅  
渡邊 昭

平成十五年度成田市一般会計・特別会計・水道事業会計の決算と基金運用状況について、地方自治法その他関係法令の規定に基づき審査した結果、決算書などの係数に誤りがなく、予算ならびに運用はその目的に沿っておおむね適正に執行されていると認められました。

一般会計・特別会計、基金

市政の重点目標にかかる予算の執行状況は、保健福祉館事業では、急病診療所の完成により保健・医療・福祉活動の総合的拠点施設整備が図られました。

教育面では、国際教育推進特区認定後、外国人英語講師の活用により小・中学校英語教育における実践的コミュニケーション能力の育成が図られました。

災害対策面では、航空機災害対策として化学消防ポンプ自動車の購入、学校、郷部大橋の耐震補強工事等計画的に整備が図られました。これらの施策は、当初の一般会計および特別会計予算の期待する効果をほぼ達成したものと認められます。

今後の財政運営については、依然として厳しい経済情勢が続く中にあつて大幅な税等の増収は期待できない一方、都市基盤の整備、少子高齢化対策、環境問題への対応、教育改革への取り組みなど、今後も多額の財政需要が見込まれます。

これからも、市税をはじめとする自主財源の確保、指定管理者制度や民間活用など行財政の合理化等を積

極的に推進し、時代の変化に的確に対応しながら、効率的な運営に努め、市民福祉の向上と市政の発展に一層努力されるよう要望します。

基金については、特定目的基金14基金、定額運用基金6基金を運用している。基金運用状況調書の係数、金額は正確でありおおむね適正に運用されていると認められました。

低金利、ペイオフの実施等、厳しい状況下にあるが、基金の目的に応じ確実かつ効率的な運用を要望します。

水道事業会計

建設改良事業では、計画的に配水管敷設工事、老朽管敷設替工事などが実施され、生活用水の安定供給に対する施設整備の充実に図られました。

業務実績では、給水人口は増加していますが、給水区域内普及率、有収水量は減少し、有収率は低下しています。

経営成績では、約2億6,608万円余りの純利益となっています。今後、老朽管の敷設替等の計画的施設整備、消費需要の動向に注視した効率的投資が推進されるものと思いますが、将来にわたる財政負担見通しを踏まえ、公営企業の経済性を発揮し、安全で良質な生活用水の安定供給に引き続き努力を望みます。

くわしくは監査委員事務局(☎201572)へ。



# バランスシートが示す 市の資産と負債

## バランスシートから 分かること

本市のバランスシートは、一般会計すべての特別会計および水道事業会計を含めて作成していますので、市の全体像を知ることができます。

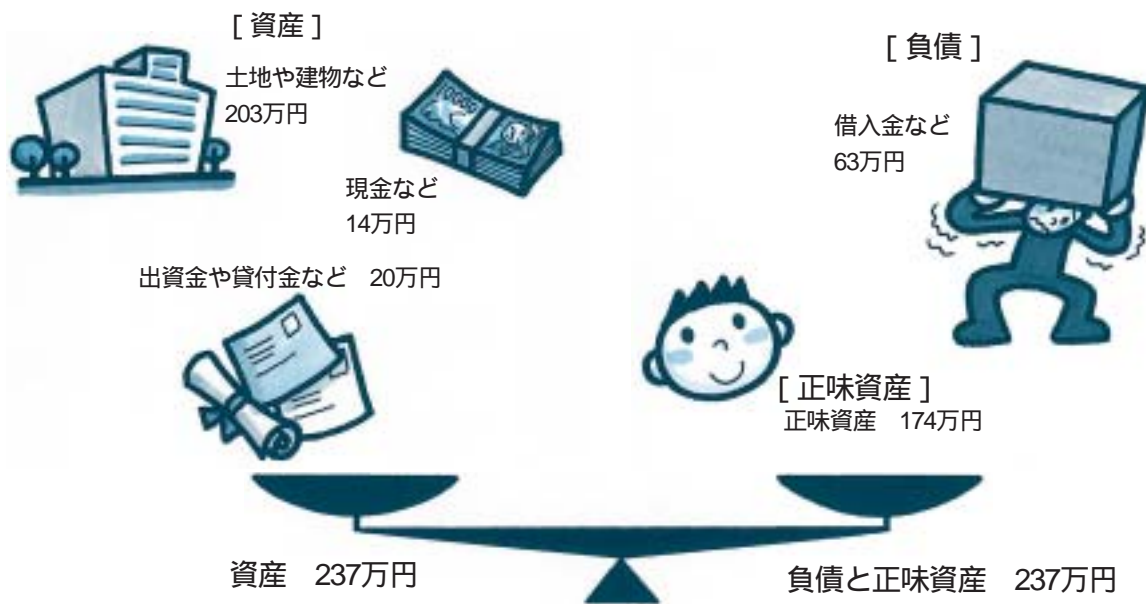
資産は、市が保有する財産の内容を表しています。道路、公園、小・中学校などの公共施設や基金などで、将来にわたり行政サービスを提供するための資源であるといえます。

負債は、将来にわたって支払いや返済の必要があるものです。市民が長期にわたって使用する施設を整備するための財源として、市債(国などからの借入金)などを利用していきます。これは、施設を使用する将来の市民にも、その費用の一部を負担していただくものです。

正味資産は、資産から負債を差し引いたもので、将来に負担を残さない資金です。市税や国・県からの補助金などで賄ったものです。

バランスシートを見ると、資産に対して正味資産の割合が高く(73.5%)、本市が健全な財政運営を行ってきたことが分かります。このバランスシートは、国の基準により作成されています。

## 市民一人当たりのバランスシート



## 成田市全体のバランスシート

(平成16年3月31日現在、単位：百万円)

[ 資産 ]		[ 負債 ]	
1. 固定資産	198,348	1. 固定負債	57,843
総務費(市庁舎、防災施設など)	10,531	地方債	49,336
民生費(保健福祉館、保育園など)	5,517	退職給与引当金	8,268
衛生費(ごみ処理施設、急病診療所など)	12,102	その他引当金等	239
労働費(勤労会館など)	101	2. 流動負債	3,776
農林水産業費(農道、排水路など)	4,618	翌年度に支払う市債など	
商工費(東和田駐車場、公衆トイレなど)	1,050		
土木費(道路橋りょう、公園、河川など)	65,614	<b>負債合計</b>	<b>61,619</b>
消防費(消防署、消防車など)	2,540		
教育費(学校、図書館、公民館など)	52,757	<b>[ 正味資産 ]</b>	
卸売市場(水産棟、青果棟など)	2,046	国からの補助金	22,221
下水道(下水管、ポンプ施設など)	25,467	県からの補助金	2,675
水道(配水管、配水場など)	15,981	市税などの一般財源	145,592
その他	24	<b>正味資産合計</b>	<b>170,488</b>
2. 投資など(出資金、貸付金など)	19,826		
3. 流動資産(現金、預金など)	13,927	<b>負債と正味資産の合計</b>	<b>232,107</b>
4. 繰延資産	6		
<b>資産の合計</b>	<b>232,107</b>		